

全国体育学習研究協議会第60回大会岐阜大会記念行事のご案内

第60回大会記念シンポジウム

全体研のこれまでとこれから

—特に50回大会から60回大会までの歩みを振り返って—

全体研会長 菊 幸一

●シンポジウムの開催趣旨について

全国体育学習研究協議会（全国大会）は、2015（平成27）年度岐阜大会をもって60回を迎えることになりました。2005（平成17）年に第50回という半世紀に及ぶ節目を迎えてから、早10年が経過したことになります。第50回長野大会では、『ふだん着の体育を求めて—全国体育学習研究会50周年記念誌—』が刊行され、大会では内外の民間研究団体の代表者を集めてシンポジウムを開催するなど、全体研の半世紀を振り返り、これからの全体研に対する期待や展望、あるいは課題が示されました。

あれから10年。その後の全体研は、これまでのような勢いは残念ながら見られず、かつて地方の中心メンバーであった方々の後継がうまく育っていない状況が課題として浮かび上がってきています。一方で、団塊世代の教員が引退し始め、若い教員採用は着実に増加していますが、他方で中堅教員の厚みのなさや研究・教育環境の悪化は、教員による自発的な研修参加を困難にさせていると同時に、教育基本法改正や学習指導要領の逆コース的改訂など民間教育団体に対する活動を阻害する要因も高まってきています。したがって、この10年の歩みは、いわゆる「いばらの10年」とでも言ってよい状況ではなかったかと思われま

す。そこで、現執行部の立場で会長（運営委員長）からは全国大会を中心としたこの10年間の主に運営面の総括を、また研究委員長からは主に研究面の総括をそれぞれ行います。次にこれらの総括を踏まえて、顧問である永島先生にはこれまでの全国大会の歩みを中心とした運営面から、佐伯先生には全体研が構築してきた理論的側面から、この10年の歩みに対する忌憚のないご意見を伺うとともに、これからの全体研に対する課題を示していただきたいと思います。また、現運営委員であり元研究委員長でもあった青木先生には、現在の全体研のあり方や方向性について何が問題なのかを伺いたいと考えています。

●演者（敬称略）

（報告）

菊 幸一（現会長）「この10年の全体研の歩みを振り返って—運営面から—」

長見 真（現研究委員長）「この10年の全体研の歩みを振り返って—研究面から—」

（コメント）

永島 惇正（元会長、現顧問）「全体研における運営面の課題」

佐伯年詩雄（前会長、現顧問）「全体研における研究面の課題」

青木 真（元研究委員長、現運営委員）「全体研の、今できる力とは」

●司会

鈴木 秀人（前研究委員長、現運営委員会幹事）

●日時…2015年11月21日（土）14時～16時（※多少、延長の可能性有り）

場所…岐阜県長良川スポーツプラザ